

語彙力を高める指導法の在り方

～短歌の創作活動をととして～

1 設定理由

平成24年度完全実施の学習指導要領では「伝統的な言語文化に関する指導の重視」を掲げており、古典は小学校段階から系統的に設定されている。中学校では一層古典に親しませ、楽しませる工夫を講じていかなければならない。換言すれば、これまでの知識注入型の一斉授業では、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てることは難しいと考える。一方、今回の改訂では、表現の仕方に関わる、語句の意味の理解に関する指導事項の中に「抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読む。」とあり、三十一音に凝縮された世界を、生徒がそれぞれ印象に残った語句をもとに読み解いていくことは大変有効であると考えた。

また、現代社会では、大量の言葉が十分に吟味し精選されることなく、私たちの身のまわりに溢れている。そして、言葉は時代の流れとともに変化しながら生き続けている。そのような中で、生徒一人一人が身のまわりにある言葉を使って、自分の思いを文章や短歌で表現するという過程は、語彙力を高めていく上で大変有効であると考えた。

以上のような理由から、短歌に興味関心を持たせ、短歌の創作活動を通じて生徒の語彙力を高めていきたいと考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

<仮説1> 近現代の短歌の鑑賞文を書くという活動を取り入れれば、短歌作品を自分の身近なものとして捉えることができ、興味関心が高まるだろう。

<仮説2> 創作する短歌のテーマから想像される言葉を書き出し、短歌の音数に当てはめるべく、それらの言葉を精選、吟味することで語彙力が高まっていくだろう。

3 研究内容

- ・ 短歌に描かれた情景や作者の思いに迫るための手法
- ・ 短歌を楽しく創る手法

4 結論

- ・ 作品に表現された世界を想像しながら鑑賞文を書くことで、短歌を身近なものとして捉えることができるようになった。
- ・ 短歌の創作に継続的に取り組んだことで、生徒は短歌を創ることにだいぶ慣れてきた様子である。日常の些細な出来事にも関心を寄せるようになった。また進んで短歌の創作に取り組む姿も見られるようになった。そして何より自分の思いを端的に表現する言葉を精選、吟味していく過程を通じ、生徒の語彙力は高まったように思う。